

名古屋大学ホームカミングデイの行事として、一般の皆様を対象に、市民公開講座を開催します。
入場無料、事前予約不要ですので、是非ご参加ください。

名古屋大学環境医学研究所 市民公開講座 2017

「神経難病の克服に向けて」

日時：平成29年10月21日（土）13:00～16:30

場所：名古屋大学 野依記念学術交流館 2階

概要：

筋萎縮性側索硬化症(ALS)やパーキンソン病をはじめとする神経難病は、本人だけではなく、介護・ケアの問題などを含めて家族や社会にも大きな影響を及ぼすため、原因の解明やその克服に向けた社会的要請が強い疾患です。

市民公開講座では、研究・臨床現場の最前線で活躍されている研究者をお招きして、神経科学・再生医学・医学研究の立場から神経難病の克服に向けての研究の現状や創薬に向けての展望、さらに患者さんのケアなどに関する最新の話題について、わかりやすく紹介します。

各講演：

「イントロダクション・神経難病 ALS の病態解明に向けた環境医学研究所の取り組み」

名古屋大学教授 山中 宏二

「iPS 細胞技術を用いた ALS の病態解析と創薬研究」

慶應義塾大学教授 岡野 栄之

「紀伊半島の神経難病 - 紀伊 ALS/PDC -」

三重大学招聘教授 小久保 康昌

「進行性核上性麻痺ってどんな病気？～最新の治療とケア～」

東名古屋病院リハビリテーション部長 饗場 郁子

会場ご案内：

地下鉄名城線 名古屋大学駅 下車
2番, 3番出口

名古屋大学 野依記念学術交流館 2階
(名古屋市千種区不老町)

※ご来場の際は、公共交通機関を
ご利用願います。



※当日は、学内全面駐車禁止となりますので、お車でのご来場はご遠慮ください。

問合せ先：名古屋大学 研究所総務課
TEL: 052-789-3886

名古屋大学環境医学研究所 市民公開講座 2017 「神経難病の克服に向けて」

日時：平成 29 年 10 月 21 日（土）13:00～16:30

場所：名古屋大学野依記念学術交流館 2 階

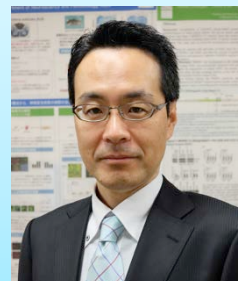
プログラム

13:00-13:05 開会の辞

13:05-13:35 「イントロダクション・神経難病 ALS の病態解明に向けた環境医学研究所の取り組み」

名古屋大学 環境医学研究所 教授 山中 宏二

ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病は神経変性疾患と呼ばれ、病気ごとに異なる異常たんぱく質が病巣に蓄積し、特定のグループの神経細胞が失われることが特徴です。一部は遺伝性に発症することから、病因遺伝子に着目した研究が進んでいます。私たちは、基礎医学研究の立場から、運動神経が傷害される ALS の研究を進めています。ALS では、傷害される運動神経だけでなく、その周囲でサポートするグリア細胞も病態に重要な役割を担うことがわかってきました。本講演では、最近の研究結果や治療法開発への展望についてお話しします。



13:35-14:15 「iPS 細胞技術を用いた ALS の病態解析と創薬研究」

慶應義塾大学 医学部生理学教室 教授 岡野 栄之

iPS 細胞技術は、再生医療や病態解明、創薬など多くの分野への応用が期待されています。私たちは、30 以上の精神・神経疾患の iPS 細胞を樹立し、その病態を解析しています。ALS については、FUS 遺伝子変異を有する家族性 ALS 患者由来運動ニューロンを用いて、創薬スクリーニング系の構築が完了し、学内で有する既存薬ライブラリー 1232 種をスクリーニングし、候補薬剤を得ることが出来ました。現在私たちは、この薬剤を用いて ALS に対する治験を準備中であります。



14:15-14:30 パネルディスカッション 1

14:30-14:45 休憩

14:45-15:25 「紀伊半島の神経難病 - 紀伊 ALS/PDC -」

三重大学大学院 地域イノベーション学研究所 招聘教授 小久保 康昌

紀伊半島南部には、古くから筋萎縮性側索硬化症（ALS）とパーキンソン認知症複合（PDC）という稀少神経難病がみとめられています。類似の疾患は、グアム島とインドネシアのパプア州にもみられます。講演会では、ALS/PDC の歴史的な経緯、臨床像、これまでに提唱された原因仮説、早期診断に向けての最新の取り組み、などについてお話しします。ALS/PDC は、アルツハイマー病など多くの神経変性疾患や加齢性変化に共通する脳内変化を反映している可能性があります。この謎の多い疾患の研究が多くの神経疾患の解明や治療法の開発に役立つことを願っています。



15:25-16:05 「進行性核上性麻痺ってどんな病気？～最新の治療とケア～」

国立病院機構東名古屋病院 神経内科 リハビリテーション部長 饗場 郁子

進行性核上性麻痺(PSP)とは、「動作がゆっくりになる」「体が固くなる」などパーキンソン病のような症状に加え、「目の動きが悪くなる」「初期からよく転ぶ」「認知障害」などの症状が出現する神経難病です。PSP ではタウとよばれる蛋白に異常が起きて、脳の中にたまっていくことがわかっており、タウ蛋白に対する薬の研究が進んでいます。また、介護上問題である転倒の予防方法やリハビリ・ケアについてもお話しします。



16:05-16:30 パネルディスカッション 2